

ベンチャー GOGO!

やまうち ひろのり
山内 寛紀会長



東京大工学系研究科修士課程修了。N T Tを退社した1996年から立命館大理工学部教授。警視庁や大阪府警で画像解析指導員、日本画像認識協会の画像解析研究専門委員長などを務める。工学博士。福井県出身。

防犯カメラなどに採用される画像処理システムを開発する。世界レベルの技術を目指し、京都市下京区の京都駅前におフィスを構え、社員8人で研究開発に挑んでいる。

会長の山内寛紀立命館大教授(63)は、N T T勤務を経て同大で画像処理と音声処理を研究。2005年に画像分野での匠(たくみ)を目指す、との思いを込め、Takumi Vision(タクミビジョン)を設立した。

住友電気工業などと共同開発した防犯カメラ向けの不審者検出シ

状況判断し不審者検出

TakumiVision

(京都市下京区)



不審者検出システムなどを開発する社員(京都市下京区・TakumiVision)

システムは、まず画面上の人物を検出して追跡する。人物が特定のエリアに近づくと、周辺に人がいないかどうかといった危険度を計算。危険度が一定の値を超えると、画面上で動く人物を検出する

自動的に関係者にメールなどで通知する。建仁寺(東山区)やほかの杜寺での実証実験を経て、今年3月に製品化した。

実際、不審者以外に、暗闇でのフラッシュや雨、雲の影に誤って反応する可能性がある。間違いやすい状況で検証した結果、「複数の大手海外メーカーと比べて一番誤検出が少なかった」と山内会長は胸を張る。人物を検出するシステムは、防犯カメラを確認する際に、動いている人物だけを取りだして見せるシステムとしても開発中だ。

誤検出を抑える鍵は、独自の画像鮮明化フィルターにある。暗闇や逆光といった「劣化画像」を、画像のドット一つ一つを見極めながら明るくしたりコントラストを強めたりする。半導体メーカーの画像処理用の高密度集積回路(LSI)や電子看板にも採用されている。昨年7月に、取引先の京都のソフト開発会社から出資を受け、営業面を強化。顧客の要望に沿った製品づくりにより注力することで、年間売上高を現在の約4千万円から、3年後に1億円に増やすことを目指す。

さらに、「5〜10年先に焦点を絞って開発することがベンチャーにとって必要(山内会長)とし、介護ロボットなど介護やエネルギー分野の製品開発にも取り組んでいる。(中村幸恵)